

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表： 令和3年 4月 15日

事業所名 山県市ピッコロ療育センター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	0	・利用者の特性や活動内容を工夫しスペースを有効に活用している。	
	2	職員の配置数は適切である	4	0	・適切である。	・職員配置と仕事内容、時間の使い方について、更に検討をしていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	1	・スロープや手すりをつけている。 ・洋式トイレが設置された。	・多目的トイレがないため、来年度施工予定。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	0	・職員会で意見を出し合っている。	・継続していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	1	3	・保護者との話し合いや語る会等で意見を聞いている。 ・今年度は保護者にアンケート調査を行い、指導時間や曜日等について意向を確認した。	・評価表を活用するよう検討していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	・継続して事業所評価を行い公表している。	・今後に活かしていけるよう、課題の検討を職員全員で行う。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	3	・第三者委員を依頼し氏名と電話番号を掲示している	・第三者委員会は実施していないので前向きに検討したい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	0	・研修会に参加している。	・今後も研修会参加の日程調整や研修報告の時間を確保していく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	3	1	・児童発達管理責任者と担当指導員が保護者のニーズや課題、本人の状態や様子を聞き取り、支援計画を作成している。	・継続していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	3		・活用できるよう対応する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0	・行っている。	・今後も活動計画を職員で検討し目的から外れていないか確認していく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	・子どもの実態に応じて内容を考え対応している。	・継続していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	0	・その都度子どもに合わせた支援を行うようにしている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	0	・作成している。	・継続していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0	・支援内や役割分担の確認を行っている。	・継続していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	0	・共有している。	・その日のうちに振り返りを行うようにしているが時間が合わないときがあるため毎回出来るようにしたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0	・毎回必ず記録はとっている。	・記録をとる時間を確保できるようにしていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	0	・半年に1回のモニタリングを行い見直しをしている。 ・必要に応じて回数を増やすこともある。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4	0	・状況に合わせて支援を行っている。	・継続していく。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	0	4	・相談支援の会議には参加していない。	・参加できるよう検討していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	3	1	・年間計画、行事予定等、教育委員会を通して連携をとっている。 ・保護者が送迎しているため、年間行事を保護者の方に教えていただくこともある。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	4	・現在対象児はいない。	・連携の仕方や内容について検討していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	0	・関係機関と連携を取り情報共有を行っている。	・継続していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	4		・依頼がある時は提供できるようにしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2	・研修があれば参加している。	・専門機関との連携や勉強会に参加していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	2	・各小学校で障がいのない子と活動する時間はある。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	0	・参加する職員を決めている。	・継続していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	・療育終了後に保護者との懇談時間を確保している。	・継続していく。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	3	・ペアレント・トレーニングは行っていない。	・保護者は送迎のみなので、指導の様子や今後の課題等を端的に分かりやすく伝えられるようにする。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0	・個別支援計画は保護者に説明をし同意を得ている。	・継続していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	0	・送迎時や連絡ノートを使って助言や支援を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	0	・保護者同士が出会える場を確保している。	・親の会はないが、今後も親さんと語る会や各行事で保護者同士の連携が図れるようにしていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	・苦情窓口係りを決め対応している。	・今後もいつでも対応できるようにしていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	・年度初めに1年間の行事予定を通信で知らせている。 ・行事やお知らせ等は掲示板にて知らせている。	・今後も掲示だけでなく療育のある日に個別に知らせる。 ・早めの掲示を心がける。
	35	個人情報に十分注意している	4	0	・個人情報は持ち出さないようにしている。 ・職員間で個人情報取り扱いの徹底を図っている。	・継続していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	・配慮している。	・子どもや保護者に合わせて伝え方を工夫していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	4		・地域住民の方の招待はしていない。 ・主任児童委員の方には継続して参加していただく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	1	・周知している。	・今後も緊急時マニュアルを保護者にもきちんと知らせていく必要がある。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	0	・行っている。	・継続していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	・研修会に参加している。	・今後も職員全員が意識できるよう心がける。そのための情報共有も行っていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	0	4	・現在対象児はいない。	・身体束縛は行っていない。 ・必要に応じて適切に対応していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0	4	・現在対象児はいない。	・必要に応じて対応していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	0	・職員会で確認をしている。	・今後もヒヤリハットが起きないように常に気をつける。